

C-71 日本在来織布の研究(第2報) —葛布について—

鹿児島大教育 小林孝子

目的 生活の近代化につれて、急速に滅亡途上にある民俗服飾の調査記録の必要を痛感し、とくに日本在来の織布についての調査研究を行っている。昨年はその中の甑島の葛布について報告した。今回も引き続き葛布について報告する。

方法 農村の生活具としての佐賀県下の葛布と、武家の衣料として織り伝えられた静岡県下の葛布について、織の密度、色彩の測定など。

結果 同じ葛布といっても、地域によって材料の採集・紡織の技法・織布の用途などに類似や差異が認められた。今回は、昨年発表のものも含め葛布全般について報告する。